

令和8年3月11日

目黒区教育委員会教育長 宛て

目黒区立大岡山小学校
校長 中山 晴義

令和7年度 目黒区立大岡山小学校 学校評価報告書

1 学校評価委員会の実施内容

(1) 第1回実施日時 令和7年6月21日(土) 午前9時10分～午前11時00分

- ・授業参観
- ・自己紹介
- ・学校経営方針について
- ・令和7年度学校行事について
- ・質疑応答・意見交換

(2) 第2回実施日時 令和8年1月17日(土) 午前8時30分～午前11時00分

- ・授業参観
- ・学校評価委員会(四者による学校評価アンケート結果と改善策の説明)
- ・質疑応答

2 参加者

第1回 工藤 香織 様(第八中PTA元会長) ・ 金色 真佑 様(本校PTA元副会長)
上原 秀一 様(大岡山東住区住民会議実行委員)
小用 清美 様(大岡山西住区住民会議実行委員)
中山 晴義 校長、 荒田 真実子 副校長

第2回 工藤 香織 様(第八中PTA元会長) ・ 金色 真佑 様(本校PTA元副会長)
上原 秀一 様(大岡山東住区住民会議実行委員)
小用 清美 様(大岡山西住区住民会議実行委員)
中山 晴義 校長、 荒田 真実子 副校長

3 評価の結果等

※四者…児童・生徒、保護者、地域の方、教職員のこと。

評価項目	◎(成果)、●(課題)、 ◎(成果と課題の両者を含む)	次年度の教育活動の改善点	学校評価委員会での意見 (学校運営協議会での意見)
I 学校全体について ・学校の雰囲気、学習環境、教職員の態度などについて、家庭・地域との連携、地域人材の活用などについて	◎学校の雰囲気については、児童、保護者、教職員とも90%を超える高い評価を得ている。地域の評価については、わずかに及ばず88.9%であつ	・学校全体については、今後も活気ある教育活動が展開できるよう、校長の学校経営方針のもと教職員一丸となり取り組んでいく。	・「学校は楽しく過ごすべき」と考えているので、保護者の立場からは、子どもが毎日楽しく学校に通わせていただいで感謝している。昨今の様々な学校

	<p>たが昨年度より 5.6 ポイント上昇している。「学校は楽しいですか」の設問に対する肯定的評価が昨年度と比較すると低学年が 3.9 ポイント、高学年が 4.2 ポイント上昇しており、多くの児童が学校生活に満足している結果となった。</p> <p>◎教職員の対応については四者ともに昨年度の肯定的評価を上回る数値となり、90%以上の評価を得ることができた。地域の方からの評価は昨年度より 16.7 ポイント上昇し 100%の肯定的評価となった。日頃から校長の学校経営方針のもと、教職員が保護者や地域に対して誠実に対応しようとする姿勢をもっていることが要因と考えられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高学年の肯定的評価を次年度も引き続き高めていくために、学校生活アンケートや総合質問紙調査「i-check」、日常的な観察等で、高学年に特有の内面的な困難さや悩み等を早期に発見し寄り添っていく。また全学年通して、学級集団、学年集団をよりよくするため、担任一人だけでなく学年全体、2学年単位の合同学年会、そして全ての教職員で児童を育てる風土を継続していく。 ・引き続き地域の方とPTAの方のご協力をいただきながら、次年度も児童のためによりよい教育活動「楽しい学校づくり」を展開できるよう努めていく。 	<p>や先生の事について、子どもたちもニュース等で目にしており現状については分かっているのではないかと。だからこそ学校と家庭が協力して子どもたちの育成を進めていかなければならないと思う。引き続き大岡山小学校の「楽しい学校」を継続していただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の運動会を開催する際に、先生が踊りの動画を撮ってください地域の方々が楽しく踊って参加することができた。また校長先生には審判をしていただくなど、地域の立場としては大岡山小学校の管理職の先生方はじめ先生方にはいつも感謝している。今後も、学校と地域との架け橋役として、地域も学校に協力していきたい。
<p>II 教育目標について</p> <p>・教育目標、時程、教育内容全体について</p>	<p>◎教育目標や教育内容について、年度当初の保護者会で丁寧の説明し、学校からの配付物等でも触れたことで、保護者からの肯定的評価は昨年度に引き続き 91.7%と高評価を得ている。また地域の肯定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き「心ゆたかな子に育てる」を重点目標とする。本校の特色でもある異学年交流を柱として、小・中連携による児童・生徒間交流を促進する等、多様な関わりを設定することにより豊かな人間関係を 	<ul style="list-style-type: none"> ・「心ゆたかな子」は、「楽しい学校」に通ずるものがある。我が子は大岡山小学校に在籍中、楽しい学校生活のおかげで「心の土台」を育てていただいた。中学校に進学して、学習が難しくなったり友達含めた人間

	<p>的評価も 92.6%と昨年度よりよりも 9.3ポイント上昇した。地域の行事や会議等でその時々学校の様子や児童のよさ、また学校経営方針等について管理職から説明し、理解していただく機会を多くもったことが要因と捉えられる。</p> <p>一方で、教育目標の中の『考える子に育てる』の達成についての項目のみ、昨年度よりも 0.4 ポイントであるが減少している。2年間の校内研究での成果を教職員は感じ取っているので、今後は保護者の方にも十分にご理解いただけるように校内掲示や学校ホームページの活用など、手立てを講じる必要があると考える。</p>	<p>はぐくむ。また次年度も教育目標について保護者や地域の方々に理解いただけるように、学校公開や運動会への参加を呼びかけたり、地域行事での関わりを深めたりしていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『考える子に育てる』という教育目標について地域や保護者の方々に周知しご理解いただくために校内研究の取組の様子や成果について、学校ホームページや学校だよりなどを活用し、発信を充実させる。研究の取組内容については年度の早い段階(6月頃)に学校だよりにおいて配信する。 ・学校公開(前期)で、校内研究に関わる内容が保護者に認識してもらいやすい実践を行う。実践内容の共通事項については研究部と教務部で検討し設定する。 	<p>関係が複雑になってきたりしたが、小学校時代に心の土台を培ってもらったおかげで崩れることなく過ごすことができた。今後も、この素晴らしい教育目標に則って、子どもたちを育ててほしいと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月の「学校だより」巻頭言にて校長先生が学校の方針を詳しく説明してくれている。読むと大変ためになる事が書かれているので、今後も引き続き、「心ゆたかな子に育てる」教育目標についての方針や経過についてお知らせいただけるとありがたい。
<p>Ⅲ 心の教育について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳科の授業の充実や児童・生徒の道徳的実践力の向上に向けた取組について 	<p>◎児童、保護者、教職員全ての肯定的評価が昨年度より上昇し、児童は95%以上となっている。教職員の肯定的評価は100%となっている。PT「こころ」を中心に取組んだ教員の日々</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特別の教科「道徳」の時間だけでなく各教科等の指導においても、言語的な交流や対話、体験活動などを通して児童の道徳的実践力の向上を目指す。道徳の授業の様子について、道徳授業地区 	<ul style="list-style-type: none"> ・「道徳授業地区公開講座」でのパネルディスカッションは、児童の道徳的実践力を高め、地域は保護者との連携を深めながら、児童の心を育てるという、学校の熱意が伝わる取組である。

	<p>の声かけや指導、道徳科の授業の充実（交換授業の実施を含む）、教員による本の紹介や校内掲示「読書の木」による読書活動等のプロジェクト「こころ」の取組がよい効果となっていると考察する。</p>	<p>公開講座の前に1学年1回学校ホームページにアップし周知を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 道徳授業地区公開講座のパネルディスカッションにおいては、内容をよく検討し、より多くの保護者に参加してもらうようにする。児童や保護者、地域、教育委員会事務局が互いに議論し合う展開を継続していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の視点から道徳授業地区公開講座のパネルディスカッションを参観した。意見を活発に発する児童がいる一方で、なかなか意見を言えない児童も一定数いるので、そのような児童も意見を表出できるような工夫をできればさらによい取組となると思う。素晴らしい取組なので、保護者の参観がもっと増えるといい。
<p>IV 学習指導等について</p> <ul style="list-style-type: none"> 学力の定着・向上に向けた授業の改善・充実、少人数指導、主体的に学習に取り組む態度等の取組について 職場体験等体験活動、自然宿泊体験教室、キャリア教育等の充実について 	<p>◎児童の「勉強は分かりますか」という問いに対する肯定的評価は低学年 96.0%、高学年 94.6%と高い水準を保っている。しかし「分からない」児童が一定数いることは本校の授業改善の視点である「学習の自己調整」について改善の余地があるといえる。保護者の「学校は、子どもの学力の定着・向上のために工夫した授業を行っている」の設問に対する肯定的評価が昨年度に比べ 1.3 ポイントであるが上昇した。学校公開での授業参観や、学校ホームページで日々の授業の様子を</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本校の学習スタイル「見通し→実行→振り返り」という学びのサイクルの活用は、かなり定着してきたので、教師側の明示的な指導と、学習方法の有効性を認知するための児童の振り返りの質の向上を図り、学習内容の理解につなげられるようにする。 児童が自らの学習を客観的に振り返ることができるよう、学習カード、振り返りシートを工夫し、指導の仕方を共有する。 今年度から児童の学校生活を包括的にサポートする学校教育支援員の運用が始まっている。学校教育支援員を効果的に配置 	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別で児童の学力差をサポートする制度は大変ありがたい。自分たちが子どもの頃は、勉強について行けない子はそのままであった。今は習熟度別に分かれてそれぞれの児童に合った進度で学習を進めていただけるので、これからもぜひ続けてほしいと考える。

	<p>配信することで、保護者の皆様に理解していただくことができたと考える。</p> <p>◎教職員は、学習用情報端末や大型提示装置等を効果的に活用しながら、児童が楽しく学べることを目指して授業を展開している。</p>	<p>することで、主に低学年の児童に対してきめ細やかな学習支援を行っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科担任制を活用し、教員の専門性を高めながら教員一人ひとりの教科指導力、授業の質の更なる向上を目指す。多くの教職員で児童の学習面をサポートできるようにする。 ・今年度、教員用、児童用ともにリニューアルした学習用情報端末の活用については、ICT 担当を中心として、更なる授業改善に向けての取組を進めていく。 	
<p>V 体育・健康教育について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力向上、健康の促進に向けた取組について 	<p>◎全項目にほぼ共通して肯定的評価の上昇が見られる。保護者の評価は昨年度より 2.1 ポイント上昇し 90.1%になった。児童も低学年は 9.8 ポイント、高学年は 5.6 ポイント上昇した。朝遊び、ロング昼休み、マイスクールスポーツの実践について、活動の定着を図ることができ、児童はそれぞれの時間の活用を積極的に行ったことが要因と捉えられる。また保護者については、研究授</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体育科を中心とした「自己調整力」向上のための授業実践は、健康の保持・増進にもつながるということを意識できるように教材研究を行い、児童に学ぶ意義をもたせるようにする。 ・高学年は「めぐろこカラダシート」と関連させるなどしてマイプラン(一週間の見通し・振り返りワークシート)を活用し、一週間単位で見通した運動についての計画と振り返りを実施する機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動に熱心に取り組んだり外で元気に遊んだりする子どもの特徴として、よく眠れて、よく食べられるようになる。そして規則正しく生活でき、土日でも朝から活動的に過ごすことができるようになると思う。大岡山小学校は、子どもたちが体を動かして活動する取組を多く設定してくれているので、今後も続けていってほしいと思う。同時に、各家庭でも意識して子どもが体を動かす機会をつくっ

	<p>業の参観、東京 2020 (オリパラ) レガシ一関連の授業参観、学校保健委員会での説明などで周知できたことが有効であったと考えられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体育的行事委員会を中心に次年度に向けてより効果的なプロジェクト「からだ」の活動内容となるよう検討していく。引き続き、児童の運動への興味・関心を高め、基礎的な体力の向上を図る。 	<p>ていけるとよい。</p>
<p>VI 特別活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校行事の充実、異学年交流活動、クラブ・部活動の充実などについて 	<p>◎学校行事の充実については、児童、保護者、教職員共に 90% 以上の高い肯定的評価を得ている。学校行事を通して児童が心豊かに育っていると考察できる。地域の方の評価は「分からない」が 23%あるものの肯定的評価が昨年度より 11.1 ポイント上昇し 77.8% となった。運動会や展覧会などの行事に来ていただいたり、学校だより等で十分に児童の様子を伝えることができたりしたことも要因の一つと考えられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校行事では、児童が主体的に計画を立てたり実践したりできるように特別活動部を中心に計画を立て、その実践を振り返ることで、次の活動に生かすことができるようにする。 ・ なかよし班（縦割り班）活動を中心に、学校行事等を通して計画的に異学年交流に取り組み、自己有用感の醸成や共感的な関わりをはぐくむ。また、学校だより等で、取組に対する児童の感想などを伝え、保護者や地域の方々によるきを知っていただくようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 下級生が上級生からお世話をされて、自分が上級生になったときに下級生のお世話をする、という異学年交流の流れが脈々と受け継がれているところが素晴らしいと感じている。縦割り班で行う「全校遠足」は、昨今では珍しい取組であるが、遠距離を徒歩で歩いて行く中で、小さい子を助けながら交流を深めていくことの価値について、すぐに効果は表れなくても、確実に子どもたちの優しい心をはぐくんでいくと思う。先生方のご準備等大変かと思うが、価値ある取組であり、今後もぜひ続けてほしい。
<p>VII 学校生活全般について</p> <p><生活指導></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生活規律の徹底、いじめや不登校の現状と対応、教員の関わり方、特別支援教育への取組 	<p>◎全体的に昨年度より肯定的評価が上昇している一方で、高学年のみ数値が 4.9 ポイント下降している。教職員・保護者の</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 引き続きいじめは絶対に許さないという風土を築き、教職員全員で児童の指導にあたる。気になる事案については生活指導部 	<ul style="list-style-type: none"> ・ いじめは子どもたちだけが抱える問題ではない。大人の社会でもいじめはある。そのような危機感を持ち、早期に対応すること

<p>などについて</p>	<p>評価は90%以上となっており、学校内では概ね落ち着いた生活を送っていると捉えられている。高学年が自己を振り返る際に厳しく評価しているか、自己肯定感によるものなのか、今回の結果の背景を注意深く探る必要がある。いじめや不登校の問題については、引き続き、学校全体で組織的に対応していく必要がある。</p>	<p>や「学校いじめ対策委員会」を中心に対応等について話し合い早期解決に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 不登校の児童については予兆を早期に把握し対応に努める。また家庭との連携を強化し、必要に応じて不登校が長期化している児童を適切に関係機関につなげ、児童一人ひとりに応じた学びを支援できるようにする。 	<p>が重要である。今後も先生方で常にアンテナを高くして見守っていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「いじめ問題を考えるめぐろ子ども会議」は非常によい取組であると思う。小学生と中学生が互いに意見を交わす貴重な経験である。今後も、内容については見直しなどを図りながら充実した取組として継続していただきたい。
<p><防災教育・安全指導> ・事故や災害に関する安全教育や情報モラル教育の充実、安全管理などについて</p>	<p>◎防災教育・安全指導について概ね高い評価を得ている。四者の肯定的評価はいずれも上昇している。特に児童の防災・安全に対する意識が高まってきている。毎月の避難訓練に真剣に取り組む様子からもうかがえる。教職員の肯定的評価は100%となっているが、児童にとって安全・安心な学校生活が続けられるよう、児童が自ら危険に気付き、すすんで安全な行動をとることができるよう、引き続き実践的な計画を立てていく必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 月1回の安全指導や日常的な安全教育、セーフティ教室、薬物乱用防止教室、交通安全教室を実施し、安全教育の充実・徹底を図る。 生活指導部を中心に、次年度も多様かつ実践的な被災想定を設定し、児童が様々な状況でも迅速に落ち着いて避難することができるような訓練を計画し実行する。 「安全指導日」で今年度より実施している児童向けショート動画を活用した指導が大変効果的であったため、次年度以降も内容を見直しながらかつ継続して各学級において活用していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 現代はSNSの発達、また日頃の報道などにより、全国の災害について子どもたちが目に触れることが容易にできる。そのような状況で学校の避難訓練に真剣に取り組んでいるというのは素晴らしい。 9月の雷雨の際に、学校の判断で子どもたちの下校を留め置き、Home & School で随時保護者へ情報を発信し、保護者へ安心感を与えた対応は素晴らしかった。天候の状況や、児童の下校の時刻などがリアルタイムで配信された。このような対応を今後も継続していただきたい。

<p><幼・保・小・中連携></p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校や同じ中学校区の小学校との連携について ・近隣の幼稚園・保育園との連携について 	<p>◎保護者の肯定的評価が昨年度から 1.1 ポイントの下降となり 79.6%となった。また保護者アンケートの回答では「分からない」が 7%となっており、学校からの周知が十分になされていないことが要因であると考えます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・目黒西中学校の新校統合に伴い、中学校区が 4 校 1 園に拡大された。「小・中連携の日」や「いじめ問題を考えるめぐろ子ども会議」、「地域教育懇談会」等の開催の様子を保護者や地域の方に伝え、広く認識していただくよう計画する。就学前教育施設との連携についても懇談等を交えながら、円滑な接続や、多様な人との関わりを大切にする取組を続けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目黒西学校で行われた「いじめ問題を考えるめぐろ子ども会議」後の地域教育懇談会について、いじめ会議のテーマとリンクさせて地域の方々とテーマに基づいた意見交換ができるとなおよいと感じた。新校統合に伴い学校数が増えたので、地域の交流を活発にするためにも、地域教育懇談会の内容を検討してよりよいものにしていただきたい。
<p>Ⅷ 情報の発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の情報発信の充実について 	<p>◎保護者や地域からの肯定的評価はいずれも 8 割を超える結果となり、昨年度の評価から上昇している。特に地域の方の肯定的評価は 9.3 ポイント上昇し 92.8%となった。今年度は、児童館や住区住民会議等へも C4thHome & School の登録を依頼し、学校からの配信が届くようにしたことにより利便性を高めたことも要因の一つと考えられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き配布文書は多くを電子配信として、ペーパーレスを実現し配布文書のスリム化に取り組んでいく。学校行事等のアンケートについても、C4thHome & School を活用し実施する。 ・地域や PTA からののお知らせについては、電子配信か紙面での配布か、効率性と情報発信の効果を考慮しながらよりよい方法で進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペーパーレスが便利で助かっている一方で、それぞれの家庭で必要な記事のみ見るという傾向にあるのではないか。学校だよりの巻頭言には、校長の考えが大変分かりやすく述べられており、全ての保護者の方々に読んでいただきたい内容ばかりである。 ・地域としては紙面で文書をいただいております、皆で回覧することができている。
<p>Ⅸ 教員の人材育成について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常の職務をとおして専門性と協働性の育成、教育公務員の自覚について 	<p>◎年間 3 回の教員の自己申告面接や日常の授業観察を活用し、教員の資質の向上を図った。また今年度も互いに授業展開を</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究や区内の研究で学んだことを生かし自己の授業力向上に生かせるようにする。 ・それぞれの職層を活 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の先生の仕事は大変だと思う。一般的な会社などと違い、同期の仲間が少ない中で、大学等を卒業してすぐに先生として振

	<p>学び合う機会を充実させて授業力の向上を目指した。それらが要因となり教員の肯定的評価は 100% となったと考えられる。</p> <p>◎若手教員の育成を目指す「OJT の会」を定期的に行い、主任教諭以上の教員を講師として、人材育成の視点で取り組むことができたことも要因と捉えられる。</p>	<p>用して組織的な人材育成が進むように校内 OJT を計画的・効率的に進めていく。</p> <p>・学習指導力、生活指導力、外部折衝力、組織運営力等、それぞれの教員に求められる資質・能力について教職員個々の強みを生かし、相互に育成できるよう、管理職、主幹教諭を中心に進めていく。</p>	<p>る舞わなければならない。また保護者は先生に 100%期待し、よくないことはよくないと言ってしまう。先生方を、学校の職場の中だけでなく、家庭や地域の皆さんで育てていこうという意識が高まってくれればよいと考える。</p>
<p>X 教員の働き方改革について</p> <p>・校務支援システムの活用、「チーム学校」を意識した業務分担等、組織的な業務の効率化・最適化について</p>	<p>◎教職員の肯定的評価が昨年度より 20.2 ポイントも上昇し、96.9%となった。校務分掌組織の最適化を図り、組織的、計画的、効率的な学校運営と業務改善を行ってきた。年間の会議回数の削減、起案による文書決裁や相談体制の徹底、教職員の意識向上など業務改善について前進しているということが考察できる。</p>	<p>・教職員一人ひとりの意識が向上し、時間内に会議を終わらせるという習慣が定着してきた。次年度は会議の前の準備・周知を効果的に進め、さらなる時間短縮を目指し効率を目指す。引き続き教職員が元気に職務を遂行できるようによりよい職場環境づくりに取り組んでいく。</p>	<p>・40分授業について、はじめ聞いたときは大変なのではないかと感じていたが、先生方は慣れてきて時間の使い方がよくなってきたのではないかと。働き方改革については学校に限らず、社会全体で取り組むべき問題である。今後も先生方の働き方改革を進め、高評価をキープしていただきたい。地域としてもできることは協力していくので、先生方も心身ともに健康に過ごしてほしいと考える。</p>
<p>XI 服務事故の防止について</p> <p>・服務事故防止に向けた取組などについて</p>	<p>◎教員の肯定的評価は昨年度より 3.3 ポイント上昇し、100%となっている。管理職による服務事故防止研修、シミュレーシ</p>	<p>・服務事故は学校全体の信用失墜行為になることを認識して職務にあたることができるよう、次年度も研修・点検を続けてい</p>	<p>・校長先生の服務事故を起こさないという姿勢や先生方への指導が明確になさっていて素晴らしい。社会全体を見ると様々な</p>

	<p>ョン研修を通して、 サービスへの意識を徹底 させることができた。 また毎月の職員 向け資料「校長だよ り」でもサービス事故防 止について、教員の 意識の向上を図るこ とができた。</p>	<p>く。また日頃から職員 向け資料「校長だよ り」、職員夕会等で適 時的に指導を行う。学 年・合同学年等で連携 しながらサービス事故を 起こさない、意識の高 い職場の風土を醸成 する。</p>	<p>事件が起きている。引 き続き校長先生のご 指導のもと、子どもた ちにとって素晴らしい 学校であってほしいと 願う。</p>
--	--	---	--